

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第3期第7回相模原市中央区区民会議				
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話042-769-9802(直通)				
開催日時		平成28年2月18日(木) 14時00分～16時00分				
開催場所		相模原市役所第3委員会室				
出席者	委員	22人(別紙のとおり)				
	その他	0人(一般参加者)				
	事務局	14人(中央区長、副区長、他12人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	-
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>開 会</p> <p>報 告</p> <p>(1) 相模原市中央区拡大区民会議の結果について</p> <p>(2) 「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について</p> <p>(3) 「～まちづくり会議委員を対象とした～ 中央区区民アンケート報告書」について</p> <p>議 題</p> <p>中央区区ビジョンの取組みと推進について</p> <p>(1) 若者世代の地域活動への参加に向けて</p> <p>その他</p> <p>閉 会</p>				

主な内容は次のとおり。

( 会長の発言 委員の発言 区長の発言 事務局の発言 )

開 会

佐藤中央区長あいさつ

( 要旨 )

・皆様方には、区民会議委員として、また各団体の代表の立場で、市政、区政の発展に大変お力をいただき御礼申し上げます。

・昨年11月に若者の地域参加をテーマに開催した、中央区拡大区民会議は、多くの区民の皆様に参加をいただきました。振り返りますと、少人数での議論を深めることを目的に、分科会形式を取ったこともあり、さまざまな立場や視点で議論を深めることができました。

・まちづくり会議委員を対象とした、中央区区民アンケートにおいても同様の課題があることを再認識できました。そこで、本日の議題は、若者世代の地域活動への参加に向け、議論を深化していきたいと考えております。

・このテーマは、地域活動団体に共通しており、決して避けては通れない課題であることから、区政の基本的な方向をご審議いただく区民会議のテーマに大変ふさわしいと考えております。

・本日の議論の進行に当たっては、あらかじめ会長と副会長にご相談させていただき、拡大区民会議や区民アンケートの結果を反映させた「論点シート」を用意しました。そのシートに沿って、本日まで出席の全ての委員からご意見をいただき、具体的な行動につながるようなご提案がいただければ幸いです。

井狩中央区区民会議会長あいさつ

( 要旨 )

・拡大区民会議については、分科会形式という初めての試みをしましたが、多くの参加者が発言できる機会を設けることができ、成果があったと考えています。

・先日、地域で起こる素朴な疑問を解決するテレビ番組を見まして、生活に密着した課題は、大小さまざまであることに気づかされました。この会議も地域課題を足元から見つめ、議論を深めていくことに共通性があると感じています。

・本日の議題進行は、拡大区民会議や区民アンケートの結果を拾い上げ、意見発表の材料

となる「論点シート」をあらかじめ皆様にお配りし、本日も出席の全ての委員からご意見をいただき、初めての試みとなります。

・本日いただいた委員のご意見をもとに、次の第一歩を開いていけるよう、進行していきたいと思えます。

中央区区民会議会長の進行により、議事が進められた。

出席者は22人であり、会議の成立要件を満たしている旨、事務局より報告した。

傍聴希望者無し。

## 報 告

次の事項について、一括して事務局より説明を行った。なお、質疑は、議題の中で一括して行った。

- (1) 相模原市中央区拡大区民会議の結果について
- (2) 「中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト」の進行状況について
- (3) 「～まちづくり会議委員を対象とした～中央区区民アンケート報告書」について

## 議 題

中央区区ビジョンの取組みと推進について

- (1) 若者世代の地域活動への参加に向けて

若者世代の地域活動への参加に向けてというテーマで、委員お一人ずつ発言をお願いする。その後、自由討論へ移行する。では、座席順に発言をお願いしたい。

所属団体は、公民館連絡協議会である。

公民館長として一番気をつけていたことは、自治会、社会福祉協議会、民生委員等と協力し、世代ごとに地域活動の担い手を把握し、リーダーの世代交代をすすめることであった。3期9年の公民館長の任期において、一定の成果があったと感じている。

また、拡大区民会議において、第1分科会のコーディネーターを務めたが、その中で、JAXAは、若者の地域参加のきっかけ作りや話題の中心になる重要な素材であることを確認できた。一過性かもしれないが、そこに地域の力が集結し、若者が興味を持ち、力を貸してくれる地域のイベントは、地域参加へのきっかけとしてとても重要である。

所属団体は、相模原市観光協会である。

市民桜まつりにおける参加団体は、若者に権限の一部を移譲して、高齢の方が周りで指導や時に責任をとりながら運営している様子がうかがえる。また、中央区は4つの大学があることから、市のイベントに積極的な参加を促しているため、今後も継続していきたい。

次に世代交代の話をする。いろいろな会議に出席しているが、若者はその場にほとんどいない。父親が引っ込めば出席すると息子に言われるが、親子関係と同様、我々世代が身を引かない限り、若者世代が参加しにくいのではないかと感じている。

我々世代の責務とは、スポンサーとしてお金を出すこと、何かことが起きたときに責任をとる、といった覚悟で若者に何かをやらせてみることであると考える。

子育て世代のスポンサーとして、少しでも子どもを産み育てやすい環境をつくることで、商店街や地域社会で子どもたちの声をもっと聞こえるようにしていきたいと思っている。

所属団体は、大野北地区まちづくり会議である。

大野北地区は、4つの大学の玄関口、国の研究機関などもあり、文化都市ではないかと感じるが、通勤や通学する方は昼間しか地域に居ないため、地域活動に参加してもらうためには、そのことを意識して連携していく必要があると感じている。招くだけでなく、我々も大学等へ出向いて、地域活性化や若者との交流を進める具体的な行動を継続していきたい。

また、本市や大野北地区の最大の懸案としては、JAXAの移転問題がある。移転反対の活動をしているが、その一環として、先日、移転反対の署名を取りまとめ、国に要望してきた。それに加え、国民生活センターの移転問題が浮上したことについても大変危惧している。

所属団体は、相模原市医師会である。

拡大区民会議で気づいたこととして、若者世代は、地域活動に対して高いハードルを意識しすぎていると感じた。第2分科会には、学生・生徒が参加していたので、若者の側でハードルを高く思わないで欲しい旨の話をさせてもらった。

先に同じ意見があったが、年配者は、お金は出すけど口は出さない、見守りをするような関係を作らないと、若者は地域の活動に参加しにくいのではないかと。

若者世代は、我々が思うほど時間が無いことを理解できたし、若者なりの悩みがたくさんあるからこそ、年配者が見守るような優しい気持ちを持つことが重要である。

所属団体は、地区社会福祉協議会連絡協議会である。

数年前、桜美林大学で映像制作を専攻する学生と知り合いになり、そのうち20名程度が夏祭りに参加し、地域の方に非常に喜んでもらった。しかし残念なことに、卒業と同時に縁が切れてしまった。個人ではなく、活動団体で引き継がれるような関係が重要であり、大学から活動団体の紹介を受けられれば、活動や発表できる機会を提供していきたい。

私の地区では、夏祭りのみこしの担ぎ手を中心に、核になる若者が20名くらい集まったので、自治会に青年部を立ち上げる努力をしている。その人数を増やしつつ、青年部の中から次世代の担い手が出てくることを期待している。

余談であるが、つい最近、小学生がいる世帯が小学校卒業と同時に引越しされた。おそらく、より広い間取りを求めたのではないかと思うが、子育て世代に良質な住宅、できれば経済的負担が軽い市営住宅が地域にあれば、引き続き地域に残ってくれるのではないかと考えている。

所属団体は、青年会議所である。

先ほども触れられたが、若者世代は高いハードルを感じており、担い手側から地域活動に誘える雰囲気が無かったり、参加するきっかけが少なかったりすると感じている。

1つ提案として、若者世代だけで構成される区民会議のようなものがあつたら、変化が生まれるのではないかと考える。審議会のような組織体までは必要ないが、そこで議論したことをこの区民会議で吸い上げると、地域活動に参加するハードルが低くなるのではないか。

20代前半の方も私たちの団体に加入しているが、彼らの中から、自治会に入っていないという話を耳にする。その理由を聞くと、きっかけがなく、誘われもしないとのことである。一方で、青年会議所の地域活動には積極的に、楽しく参加してくれている。このことからすると、地域活動に参加する意識はあるので、若者の視点に立った運営をするように変革するべきではないだろうか。

所属団体は、私立保育園園長会である。

平成27年3月に、大規模災害が発生した場合、緊急的・一時的な保育を実施する「災害時乳幼児支援ステーション」に関する協定を市と結んだことを契機に、地域の乳幼児の支援活動について、より強く意識するようになった。

主な課題として、乳幼児とその親で構成される家庭は、地域とのつながりが薄い傾向

があるため、地域にどのぐらい支援対象の乳幼児がいるか、自治会に加入しているかなどの情報を把握しにくい状況がある。

子どもが小学校入学を控える年齢になると、保護者は地域に目を向け始めるので、その機会に子ども会や自治会の身近な地域活動へ積極的に声を掛けるとよい。

所属団体は、中央地区まちづくり会議である。

中央地域では、小さい時から地域活動に触れてもらおうと、ふるさとまつり等の自治会イベントに中学生や高校生と、企画の段階から一緒に行っている。回を重ねるごとに結束が図られている。また、相模原の宝であるJAXAと今年から宇宙教室を開催し、職員の方から宇宙に関する講座や見学会を行っている。

このような活動を通じて、地域活動へ参加するきっかけづくりを進め、次の世代の人に自治会活動を引き継いでいきたいと思っている。

所属団体は、田名地区まちづくり会議である。

田名地区は、小、中、高校が揃っているため、定期的に合同会議を開催し、連携が図れる環境にある。その効果として、あいさつ運動や担い手が高齢化しつつある地域イベント等で、特に中、高校生から多くの支援をしてもらっている。特に昨年は、田名地区体育祭で高校生が運営の一部を担い、スムーズに進行できたと聞いている。

所属団体は、小山地区まちづくり会議である。

まちづくり会議において、自治会と子ども会の連携について議論したので、その話をする。

まず、子ども会活動に携わっている子育て世代の声を聞き、どのような悩みや課題を抱えているかを把握するため、子ども会と自治会がコミュニケーションを図ることが必要であるという意見があった。

私からは、多くの会議の年齢構成について、高齢者が多く若者世代が少ないため意見が反映されにくい状況があること、自治会が子ども会を支援していくことの重要性について発言した。

次に、若者との意思疎通について話をすると、若者の参加が多く、選手選考がうまくいっている自治会は、地区で開催する運動会の成績が良好であることから、それが一つの指標になるのではないかと。

所属団体は、星が丘地区まちづくり会議である。

子ども会、PTAと自治会の関係について話をする。

まず、自治会役員の人材難について耳にするが、星が丘地区では、自治会の中に子ども会が位置づけられているため、人材の宝庫である子ども会やPTA役員と連携が図れており、自治会役員へうまく誘引している。

また、現役世代で、子ども会役員から自治会役員になった方については、仕事などの都合もあるので、会合などは、来られるときに来ればよいという配慮をしている。

エピソードを紹介すると、運動会であれば、子ども会の方が楽しそうに運営をしている、テントが無ければ若い人たちが考えて確保している、選手集めを無理にしなくても顔の知らないお父さんが選手として走っている、といった様子である。また、お祭りであれば、焼き鳥は煙いので別の屋台に代えようなど、若者に運営を任せられた結果、行事もさまざまに変化している。

子ども会役員の引継事項に、困った時は自治会長へ相談するという項目があるらしいのだが、困り事の大半が運営経費ぐらいである。自治会費はそれなりにお預かりしており、相談に乗れるので、非常に良い関係ができています。

所属団体は、清新地区まちづくり会議である。

担い手不足は、自治会に限らず、民生委員児童委員、公民館の各種指導員などで欠員が生じており、若者世代に期待したい現状がある。

清新地区の子ども会は、以前は18の子ども会があったが、現在は5つで、そのうち1つは解散の可能性がある状況である。それを改善するため、自治会、青少年指導員、PTAが連携し、地区子ども会連合会や単位の子どもの役員負担軽減について検討するため、まちづくり会議の中に分科会を設け、支援する方法を検討している。また、子ども会の担い手不足については、PTAや子ども会役員の経験者、少年野球やドッジボールの指導経験者、自治会内に組織されているソフトボールチーム関係者、公民館利用団体といった方へ支援をお願いし、成功している事例がある。

子ども会を支援すると、その役員の方々から、できる範囲で自治会役員を引き受けてくれることもあるので、助け合いの気持ちが重要である。

公募委員として、意見を述べる。

新規の取り組みも大切であるが、まず、日常的なことについて見直しや充実を図ることが大切である。

例えば、地域包括支援センターについては、高齢者だけを対象とせず、介護をする世代を対象としたワークショップや講演会、ボランティア団体との連携などの視点が大切

である。

高齢者に絞らず、対象を広げることで、ボランティアに興味のある学生、自分の祖父母や両親の介護で悩んでいる若者世代に活動に参加してもらい、人材を発掘するという工夫が必要である。

所属団体は、市立小中学校PTA連絡協議会である。

仕事や子育ての現役世代であると、PTA活動以外に公民館活動などを並行して行うことは時間的に難しいため、PTA役員を引退した時にうまく地域活動へ引き入れることが大事である。

先日、公民館の集いに参加した中で聞いた成功事例を紹介すると、公民館の青年部が組織され、PTA役員を勇退した方が加入するサイクルがある地域では、そのメンバーが地域活動の担い手になっていくということであった。

私たちの団体においても、勇退した後は、自治会役員の打診があった時や公民館活動の支援の依頼があったとき、是非とも引き受けて欲しいとお願いしている。PTA役員として活動した方の今後の活躍の幅を広げ、地域貢献にもつながるので、とても重要なことであると考えている。地区自治会連合会の役員の皆さん、是非とも我々に温かく声を掛けていただき、自治会活動へ引き入れていただきたい。

所属団体は、市民生委員児童委員連絡協議会で、大野北地区の民生委員である。

児童・生徒の育成に関しては、例えば民生委員児童委員や主任児童委員、青少年問題協議会、青少年健全育成協議会、社会福祉協議会がある。また、地域団体には、子ども会やPTAがあり、活発に活動をしていると思うが、それぞれの連携というか、太い線につながっていない現状に大きな問題があると考えている。

青少年関係の団体がネットワークをつくり、子育てに関する課題を共有することが重要である。

各協議会の委員は、構成団体の代表や役員に固定化されている。若者世代がその中に参画できるようにするには、代表でなくても参画できるポストを用意することが重要である。

私自身、若い人たちの思いや活動を支援することは、よほど決心しないとできないと痛切に感じているが、若い方のアイデアを実現するには、担い手側が勇気を持って支える、応援する体制が大切である。

また、若者世代は、働いている方が多数であり、会議開催のあり方についても、参加



しやすい時間帯などの配慮をしていかなければならない。やりがいのある活動であれば、喜びや達成感が得られるので、参加できるチャンスを作っていく必要がある。

所属団体は、上溝地区まちづくり会議である。地区の課題の一つに、商店街が衰退し、会員の拡大が非常に厳しい現状がある。

上溝地区では、盛大な夏祭りを催しているので、子ども達にお囃子などの伝統芸能に触れて、将来的には指導者や地域活動の担い手となってもらえるよう育成し、会員の拡大などにも結び付けていきたいと考えている。

所属団体は、光が丘地区まちづくり会議である。

テーマに沿って、3つの視点で話をする。

まず、地域に無関心の若い人たちへの情報提供については、スマートフォンが活用できるよう自治会連合会のホームページをつくり直し、若い人たちが自治会活動の情報に触れられるよう工夫している。

次に、地域活動に参加しやすい環境づくりについては、自治会長と子ども会育成会の懇談会を開催したところ、多くの悩みを持っていることがわかり、自治会長会議の中で、自治会に育成部を作るなどの負担軽減策について検討を開始した。

3番目として、若者世代にある程度任せることである。エピソードを紹介すると、キュウリの切り方など細かいことをうるさく言われるので、お祭りの手伝いに参加したくないという話を聞いた。あくまでも一つの例であるが、このようなことが積み積もり積もりと、若者世代が参加しにくいハードルを作ってしまうのである。

公募委員として、意見を述べる。

私が子どもの頃は、少年野球やドッジボールのチームがあり、多くの指導者から学べる場が地域にあったが、現在は、塾や習い事など、お金を払って学ぶことが増えている。

子どもと地域のつながりが不足していると感じるが、一つの提案として、特技を持った子どもを探し出し、大人がサポートした中で、イベントを開催するなどして、つながりを持たせてあげれば、少しずつ変化が起きるのではないか。

公募委員で、大野北地区の自治会で役員をしている。

配布された資料を見ると、地域活動に参加するきっかけがないという意見が多いと感じた。参加しなければ、担い手への発展はない。そこで、きっかけづくりについて話をする。

私の自治会では、新入学児童のお祝い会を開催しており、昨年度は、自治会加入の有

無にかかわらず、対象約50世帯のうち、18世帯が出席された。若者世代であるその保護者にターゲットを絞って、PTA、子ども会、自治会の活動を紹介し、地域の見守りや自治会のイベントに参加してもらえた効果があった。

また、中央区さくら咲くボーイズ39について地域で紹介したところ、2名申し込んでくれた。そのような小さなつながりから、若者世代と顔が見える関係が作れたのはとても良いことであった。

所属団体は、相模原商工会議所である。

まず、若者世代の定義が学生、生徒なのか、20～40歳代なのかわかりにくい部分があることに触れておく。

次に、若者の地域活動と教育について話をする。若者が、社会性や地域活動の重要性をどこで学ぶのかというと、私自身、いつどこで何をやれと具体的に言われた記憶はないが、知らないうちに地域活動を担っている。おそらく、若いうちからの経験の積み重ね、日ごろの教育が骨格を作っていると考えます。

小学生であれば、職場見学として、市役所や消防署、地元のスーパーなどを見学し、授業参観で発表している。中学生になると、職場体験として、地元の商店や工場、保育園など、受け入れてくれる事業者へ何日か通い、社会生活の一部を経験する。高校生になると、例えば我々が企画したイベントでダンスの披露や絵を描いてくれるよう依頼すると参加してくれるなど、大人たちとのつながりを身につけていく。このような経験の積み重ねから身につくことが教育の中で重要ではないかと思う。

ローカルなところであれば、例えば農作業のように、小さいころから無意識に地域の大人たちと活動するが、相模原のような都市化が進んでいると、そのような部分が弱くなる。教育の中で、少しずつでも社会や大人との接点について取り込むと、社会に出た時、自分も何かやってみようとするようになり、自発的に取り組むようになるのではないかと。また、担い手側としては、若者を引き入れやすくなるのではないかと。

所属団体は、市自治会連合会である。

まず、中・高校生については、校長先生の考え方を含め、学校側がどの程度協力してくれるかによって状況がとて変化するので、継続して地域と学校の連携を図っておくことが重要である。

田名地区で見ると、青少年健全育成協議会に小学校、中学校、高校の校長先生が全て参加しており、顔が見える関係ができている。

次に、子育て世代が次の担い手になってもらうためには、ターゲットとして、PTAや子ども会の役員経験者を考えている。青少年指導員やスポーツ推進委員などは、PTAの役員経験者をうまく入り込んでいるが、子ども会役員経験者については、次のステップへ進んでいない状況がある。原因として、学校、PTA、子ども会の連携する体制が見えにくいからである。私たちが考える地域活動の入り口は、子ども会やPTAの活動である。その経験者が自治会役員に就くと、その関連で、子ども会やPTAに参加している保護者を地域活動へ誘引してくれる。しかし、最近はそれが薄れてきたと感じるので、その部分を立て直したいと考えている。

私が小学生の頃は、学校生活の中で地域の方と関わりを持った記憶が無かった。そのような価値観で保護者になった時、子どもが通う小学校の活動にいろいろな形で自治会の方たちが入ってきてくれたことを経験し、地域と学校の関わりについて知った経験がある。したがって、地域活動に対する保護者の価値観は、地域との関わりを持った育てられ方をしたのか否かで大きく左右されるのである。

また、PTA活動での経験を話すと、役員の中には、指導力や行動力のある保護者がたくさんいるので、複数の委員の意見にもあったとおり、次世代の地域活動の担い手として有望であると感じている。

各地域で取り組まれている学校、自治会、子ども会の連携について、そのような育てられ方をした子どもたちが保護者の世代になったとき、地域活動に入っていくことが当然と思うような変化が、将来的に生まれてくるのではないかと期待している。

次に、大学生との関わりについては、私が勤務する大学の文化祭において地域の方が豚汁などの模擬店を出店してくださるなど、地域と学生が定期的に交流している。学生たちもそのようなつながりから、自治会とはどのようなものかを肌で感じていると思う。

では、次に自由討論に移るので、発言をお願いしたい。

議論するうえで、若者世代の範囲が広いため、整理をしたい。

概ね、20歳代から40歳代の範囲である。

議論の方向性について提案する。まず、学生と30歳から40歳代では置かれている立場が異なること。そしてPTAや子ども会など、地域活動と若干でも接点がある方と、働き盛りで接点が全くない方を分けて議論すると整理しやすいのではないかと。

商店街や販売業の視点で話をする。サラリーマンから起業すると40歳前後が主流と思われるが、現在は、地域に密着した業態での起業が非常に減っている。地域の方が顧

客であり、地域に貢献したいからこそ、店主は一生懸命PTAや自治会活動をしてきたが、最近では、その部分が疲弊している。チェーンのスーパーマーケットとなれば、その関係者はサラリーマンであるから、地元には出てこない。

極端な表現になってしまうが、仮にちょっと美味しくなくても、多少値段が高くて、地元の商店を支えてあげないと地域活動に出てこれないのではないかと。もし、地域密着型のお店が開業した際には、きっとオーナーも地域活動したいと思っているので、応援していただきたい。

医師会においても、メディカルセンターの夜間休日の当番医や学校医などの地域貢献について、新規開業する40歳前後の先生は、非協力的な部分があり、少々強制的にしていけないと厳しい状況がある。

学生との関わりについては、医師会が主催した市民公開講座で、青山学院大学の放送サークルの方に司会をお願いしたことがあるが、行政が主催する行事でも積極的に人材として活用してもよいと思う。

子ども、親、祖父母世代の3世代交流について話をする。若い人から、高齢者と若者では話があまり合わないと聞く。それは当然であり、子どもが子ども同士で遊ぶのが一番楽しいのと同様に、若者は若者同士で活動するのが楽しいのである。

祖父母世代の我々は、どうしても3世代が一緒になって活動しようと考えてしまうが、楽しくなければ続かないので、どうやって地域活動の中で若者同士が同じ価値観で活動できるか、そこから始まると考える。

公民館活動の担い手を発掘する上で、一番意識したことは、各世代の核となる方がどのような人材を引き入れてくれるか、また、その情報をどこから集めるかということである。

私は60歳代であるから、先ほどの話のとおり、20歳代、30歳代に声をかけても話題がかみ合わない。ならば、少し下の50歳代前後の方、その方から少しずつ下の年代へつなげてもらう。そういった情報網を各地域のリーダーの方が持っているか否かということがその地域の活性化に深く影響すると考える。

また、公民館は、誰でも来やすい場所である。そこで、公民館職員や地域の人たちが、いかに若者がそこへ帰ってきたくなるかという雰囲気をつくれるかである。

光が丘公民館では、小・中学校のときに不登校だった子どもたちが大きくなった今でも出入りしてくれている。また、小学生のときにジュニアリーダーを経験した方は、生

まれ育ったこの地域に帰ってきたいと言ってくれている。なぜなら、地域に帰ってくると声をかけてくれる大人がいるからである。

また、PTA役員経験者のつながりはとても重要である。通っていた子どもは卒業するとその学校にはいなくなってしまうが、つながりのある先生は残っているので、PTA経験者のネットワークはとても大切である。

世代間交流について、保育園では20歳代から30歳代の若い保育士がたくさん勤務していると思うが、地域でどのような関わりや活動をしているかお話を聞きたい。

一例として、子どもの頃に地域のお囃子やお祭りなどを経験し、母親となってお囃子の指導者になっている職員がいる。

公民館との関わりについては、上溝地区の保育園が一体となって子育てサロンを公民館で運営している。今まで公民館に縁が無かった保護者が子育てサロンをきっかけに公民館事業や地域の活動につながりが持てないかと考えている。

担い手は、自分より下の世代に頼られるようになることが大切である。子ども会の衰退の話もがあったが、たとえば、先日、餅つきをしたいが準備ができないとの相談があった時、我々世代で準備をした。子ども会としても何かをやりたいとしても、企画、広報、その他さまざまな準備をどうしたらよいのか手がかりがないこともある。そういうときに頼られる人になれば、子育て世代とつながりができると思う。

また、公民館には、PTA役員など、いろいろな役回りの方が来ているが、そういう人たちに話かけるようにしている。人間関係においては、あいさつやちょっとしたコミュニケーションから始まっていくことを意識することが重要である。

子育て世代について意見があれば聞きたい。

最近若いお母さんに聞いた話であるが、保育園の時は、持ち物を詳細に教えてもらっていたが、小学校では、保護者が準備しなければならないものが急であったり、用意できなかったりと、苦労しているとのことであった。昔は、上の学年の子を持つお母さんや近所の人から、登校班の集合場所で教えてもらえたようなことが、コミュニケーションの希薄化により情報が入らず、時には孤独感に襲われており、地域活動に参加する前段で困っている状況がある。

また、以前に比べ、専業主婦の割合が減っており、その方々に頼った組織運営では立ち行かなくなっている。また、お母さん方の時間的、精神的な余裕というものが無くなってきているので、子育て世代で働いている方でも取り込める環境づくりが必要である。

そのような時期を乗り越えてきた少し上の先輩である、例えば40歳代の方が優しく教えてあげられるような、そういった世代間の交流が自治会や公民館でもできないものかと思う。

子育てをしていた当時、困りごとのアンケートを地域で行うことは無かったと記憶している。もし、そのようなアンケートが実施されれば、何かが見えてくるのではないかと感じた。

私は、働きつつも小学校の読み聞かせ活動に参加していた。週に1回15分だけ時間をつくり、すぐ職場に向かった記憶がある。皆が時間を少しずつ出し合えば、働いていてもできる活動があるのではないか。

担い手の再発見ということで話をする。子ども会が中心となって、学校を退職された方に依頼して、自治会館で小学生にボランティアで勉強を教えてもらっている。

子ども会だけでは、人材に関する情報収集に限界があるが、子ども会と自治会で普段からコミュニケーションを取っていると、そのような効果がある。

青少年指導員を引き受けたことで、子育て世代と話す機会があったが、役員を引き受ける際、仕事などの都合から、満身に役割を果たせないという不安から二の足を踏んでしまうとのことであった。年長者が、やれるときにやれる範囲で果たせばよい、そこまで一生懸命やらなくてよいと声を掛けることで、受け手の側の気持ちも楽になるので、そういった配慮やコミュニケーションが重要である。

本日は、いろいろな視点で発言をいただき感謝する。

大学生の地域活動という視点で報告すると、市のボランティア認定制度で、私が勤務する大学の学生11人がボランティア学士に認定され感謝している。学生にとって忙しい3月に授与式があるため参加が難しいのではないかと考えていたところ、9人が行きたいと答えてくれた。本人たちは、とてもうれしかったのであろう。

この学生たちは、間違いなく地域活動に今後も参加してくれると期待しているが、そのような仕掛けは重要ではないだろうか。

本日の議論は、具体的に結論を出すということではなく、事務局が整理すると聞いているので、結果報告を待つことにしてこの議題を終了する。

その他

事務局より連絡事項

- ・ 次回の区民会議の日程は、5月中旬を予定している。
- ・ 第3期区民会議の活動記録については、会長、副会長と相談の上、提案したい。

閉 会

田所中央区区民会議副会長あいさつ

(要旨)

- ・ 本日は、担い手の本音という部分で、非常に良い意見を聞くことができました。
- ・ 長年、地域の担い手である我々は、会議等の出席率が悪いなど、プレッシャーをかけてしまっている点について、反省をしなければならないと思います。
- ・ 40歳代から50歳代が地域活動に入りにくい課題として、子育て世代が多忙であるということに加え、親の介護があるという話も聞きます。特に別居している親の介護は、相当な負担があるので、地域全体でそのようなことも議論していく必要があります。
- ・ 地域活動をより活発にするには、さまざまな課題があると思うが、今後とも区民会議の中で活発な意見交換をしながら、1つでも、2つでも具体的な対策が見出せれば、区民会議の役割を果たしていると考えます。
- ・ 本日は、お忙しい中、出席いただきましてありがとうございます。以上をもちまして、中央区区民会議を終了します。

以 上

第3期第7回相模原市中央区区民会議 委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	井狩 芳子	学識経験者（和泉短期大学）	会長	出席
2	石井 トシ子	相模原市公民館連絡協議会中央区ブロック		出席
3	井上 政市	相模原交通安全協会		欠席
4	浦上 裕史	一般社団法人相模原市観光協会		出席
5	河本 博	大野北地区まちづくり会議		出席
6	木内 哲也	一般社団法人相模原市医師会		出席
7	木村 清	横山地区まちづくり会議		欠席
8	坂本 洋三	相模原市地区社会福祉協議会連絡協議会中央区連絡会		出席
9	佐々木 亮一	公益社団法人相模原青年会議所		出席
10	清水 洋子	相模原市私立保育園園長会		出席
11	代田 昭	中央地区まちづくり会議		出席
12	関戸 丈夫	田名地区まちづくり会議		出席
13	武井 弘吉	小山地区まちづくり会議		出席
14	竹田 幹夫	星が丘地区まちづくり会議		出席
15	田代 明寛	清新地区まちづくり会議		出席
16	田所 昌訓	相模原市自治会連合会	副会長	出席
17	千葉 更男	公募委員		出席
18	永井 廣子	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
19	中西 豊和	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
20	長谷川 光義	上溝地区まちづくり会議		出席
21	久松 伸	学識経験者（麻布大学）		欠席
22	平林 清	光が丘地区まちづくり会議		出席
23	本郷 永子	公募委員		出席
24	宮津 敏信	公募委員		出席
25	横山 房男	相模原商工会議所		出席